



Question with Sensibility「問いの感性」の頭文字を取ったQWS。  
人ひとが行き交い、多様な活動が行われるCROSS PARKの背後には、ドリンクやフードを提供するCAFE HINTが設けられている。





## 多彩な人びとが交差・交流し、 問いを課題解決につなげる共創施設

渋谷スクランブルスクエアの15階フロア全体（約2,600m<sup>2</sup>）を占める「SHIBUYA QWS」は、年齢や専門領域を問わず、渋谷に集い活動する人たちの拠点。コミュニティコンセプトを「Scramble Society」として、グループ間の交流や領域横断の取り組みにより、クリエイティブ人材の育成も含め、未来に向けた価値創造活動を加速することが意図されている。

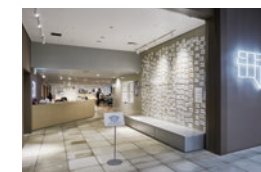
渋谷キューズ エグゼクティブ ディレクターの野村幸雄氏は「アート、デザイン、サイエンス、エンジニア、ビジネスも含めて多様なバックグラウンドを持つ人たちが、立場を超えて対話できるコミュニティをめざしたので、空間には極力壁を造らないように計画した」と語る。

人びとが行き交うオープンな空間でワークショップやトークセッションの場としても活用できるCROSS PARK、チームに合わせてレイアウトできる可動式テーブルを備えた新しい価値創造に取り組む場としてのPROJECT BASE、200名規模のセミナーやイベントが開催できるSCRAMBLE HALLなどが設けられている。大学や海外類似施設など、幅広い領域のパートナーと連携する、キューズチャレンジやスクランブルミーティングなど、多種多様なプログラムが用意されている。

個人会員以外にも現在86社\*の法人会員（企業・自治体）が参加し、競争する同業他社が空間を共有して同居している。また、この施設はZ世代の会員が多いため、企業は若者層のマーケティングからテスト、フィードバックまでを日常的に実施。地方自治体は関係人口を創出するためのイベントを開催し、新産業のスタッフをここに招いて事業会社や投資家と会うセッションも行っている。さらに、各分野のエキスパートであるコモンズ会員は、プロジェクト会員の相談相手ともなる憧れの存在であり、BOOSTER OFFICEの法律事務所や投資家などとともに、会員の支援にあたっている。「ここでクリエイティブ人材が育ち、新しい社会活動に挑戦できるように新しいプログラムも開発し、支えて行きたい」と野村氏は語る。

※2025年4月現在

- ◀（上）可動式のテーブルやホワイトボード、FAB ROOMを備え、さまざまなプロジェクトに合わせた活動が行える PROJECT BASE  
（下）スクランブル交差点を望むSCRAMBLE HALLは、セミナー・イベントなどが行える200名規模のイベントスペース



### SHIBUYA QWS（渋谷キューズ）

所在地／東京都渋谷区渋谷  
事業主／渋谷スクランブルスクエア株式会社  
内装設計／DOMINO ARCHITECTS+山本基揮建築設計  
内装工事／渋谷駅街区東棟新築工事共同企業体（東急建設、大成建設）  
オープン／2019年11月



3Dプリンターやレーザーカッターも備えた  
FAB ROOM



食を介したコミュニケーションが生まれる  
CAFE HinT



スクランブル交差点が一望できる  
実際のスタンド席



集中したい時にこもれる隠れ家のようなスペース



レストランとしての利用や商談などにも利用できる  
SALON、MODIFYの円形照明が空間のアクセントに



会員をサポートする法律事務所や投資家などが  
入居しているBOOSTER OFFICE

### フロア平面図

